

## R3地域協働研究（ステージⅠ）

### R03-I-26 「二戸駅前・石切所地区の商業活性化に関する研究」

課題提案者 二戸市産業振興部商工観光流通課

研究代表者 総合政策学部 倉原宗孝

研究チーム員 戸来守和（二戸駅前地区連合町内会）、柴田裕彰（二戸市）

#### <要旨>

二戸駅前地区の区画整理事業において、これまで駅西側地区で先行して進められてきたが、今般既成市街地である駅東側に事業が進み、新たな「二戸市の顔」としての駅前広場整備や、交通拠点機能の強化と地域住民と連携した賑わいの創出が求められている。二戸駅東側地区は、これまで後継者の不在、空き店舗の増加といった問題を抱えており、今般の区画整理事業では、地域のビジョンが明確になる前に、工事が先行している状況にある。その上で本研究では早急に地域住民と議論を重ねながら次期の二戸駅前のあるべき姿についてビジョン構築を目指す。これは二戸駅周辺の今後の地域振興を狙うものであるが、今日の人口減少にある全国地方都市の駅前・街中整備、特に区画整理事業に関わる知見を得ようとするものでもある。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

二戸駅は、明治24年に日本鉄道の福岡駅として開業し、岩手県北地域の交通拠点として古くから機能してきた。平成14年には東北新幹線の延伸で新幹線停車駅となり、並行する在来線はIGRいわて銀河鉄道に移管された。二戸市においては当駅を起点とした岩手・秋田・青森にまたがる広域観光への取り組みも実施している。この二戸駅周辺地区では、東北新幹線二戸駅の開業に合わせた区画整理事業が継続され（施工期間：平成8年度～令和12年度（予定））、西側地区で先行して事業が進められてきたが、今般既成市街地である駅東側に事業が進み、新たな「二戸市の顔」としての駅前広場整備や、交通拠点機能の強化と地域住民と連携した賑わいの創出が求められている。

しかしながら、急に工事が進む状況となったことから、明確なイメージがないまま工事が先行し、住民サイドでもビジョンを固めきれないままであり、区画整理事業の動きに街のイメージが追いついていない状況である（図1）。またかつて商店が立ち並ぶ街並みであったが、現在は後継者不在などの理由によりシャッターを閉めている店舗が増加し当該地区の疲弊回避も緊急の課題となっている。その中で二戸駅前地区連合町内会の働きかけにより、若い世代が集い地元を目

を向ける人づくりが結実しつつある。本研究はこうした地元主体の動きを駅前整備とそれに続くハード・ソフトのビジョンを描き出そうとするものである。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

区画整理事業が進行する中で、急ぎ年度内のビジョンづくりに向けて、駅前地区連合町内会をはじめとした地元有志、行政、関係団体による協議を重ねた。またそのための地域内外の情報収集・分析、大学・学生による課題・魅力発見などの作業、地元住民・関係者の区画整理に関するアンケート調査等を行い、それら結果・成果を関係団体の協議に融合しつつ駅前整備ビジョンに向かった。

#### 3 これまで得られた研究の成果

##### 3-1 地元関係者の意向把握とビジョンづくりへの議論

駅前区画整理とその後の利活用を考える上で、現事業者の意向を把握する必要がある。その上で地元キーマンで共同研究者の戸来氏を中心に事業者の意向調査が行われた。結果、回答を得た16社のうち事業を継続すると答えたのは7社、継続しないと答えたのは6社、分からないが2社、未回答は1社だった。また継続しないと回答した事業の土地利用については個人的な住居や駐車場、賃貸オフィスにするなど活用が決まっているところもあるが、活用可能な土地は他にも点在しておりそれらの詳しい活用方法は定まっていない状況であった。図2にその状況をまとめる。青色が利活用可能、黄色が宅地として活用、緑色が商業施設や住居兼店舗として活用が想定される。図中、中央の赤は東口商店街通りを記す。

関係事業者などの意向が一定程度把握されたものの、駅前の将来性が漠然としていることや商店街の減少で活気がなくなることへの危機感は強い。その上で二戸駅前の石切所地区に関わりのある人材を集めつつ、現役世代と将来のまちづくりを担う20～30代の若者が中心となるまちづくり組織を立ち上げるため、二戸駅前のまちづくりの方向性を定める会議を重ねてきた。コロナ禍の影響があり多人数での集まりは避けられたが、全体会議3回をはじめ大小議論のもと最終的ビジョン提示に向かった。

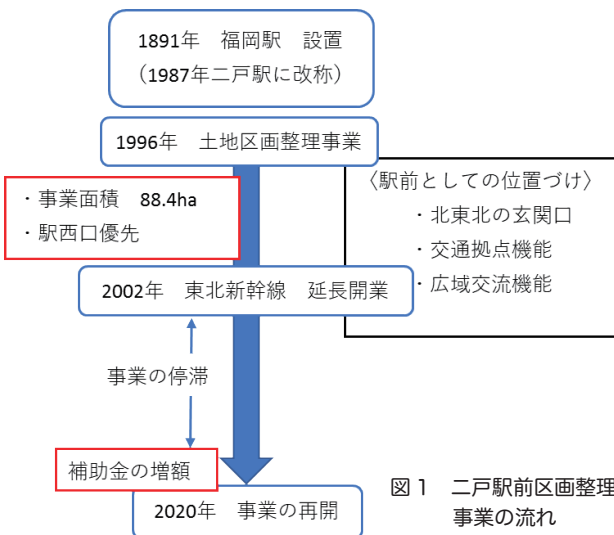


図1 二戸駅前区画整理事業の流れ

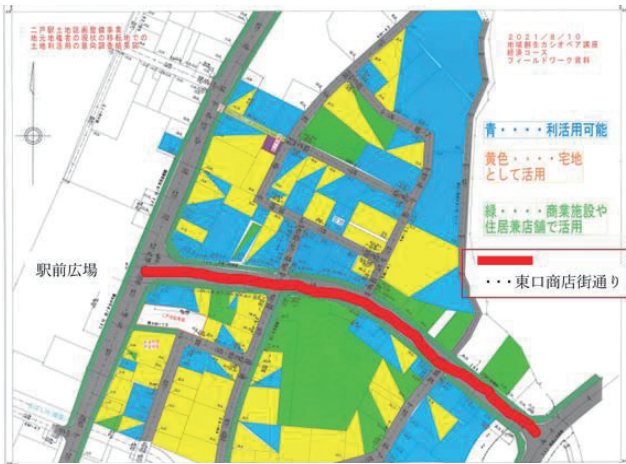


図2 二戸駅土地区画整理事業に伴う住民の土地利用意向(一部改変)

これら検討と並行しつつソフト面の仕掛けも行われている。検討の中では当該地区の要となり得る素材として商店街一角にある栃木神社に着目された。区画整理上でも地理的に重要な位置にあり、コミュニティ育成の上でも注目される。この神社をテーマにしたイベントの継続的な実施のもと賑わいづくりと共に内外の関心、意識高揚が狙われる。



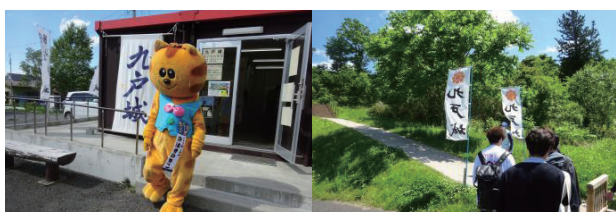
写真：地域の要として金勢様が祀られる栃木神社に着目された。その内容はユニークでもあり地元石切住民の性格をよく表していると皆が楽しみながらイベント企画・実施する中で地区を盛り上げている。

### 3-2 学生も交えた現地観察調査と資源活用への検討

並行して地区外の立場、特に若い世代(大学生)の目線から当該地区の問題、活かすべき素材などを検討するための観察や地元関係者との検討を行った。



写真：区画整理地区を中心とした町の観察(左)のあと、地元関係者と学生による意見交換会などが重ねられた。



写真：観察では地元キャラクター(浄法寺のねこ、左)や区画整理地区外だが九戸城跡など重要・有効な素材にも着目された。

最終的に学生側からの提案とそれを題材にした検討が行われる。当日は地元高校生も参加して活発な意見交換となった。特に地元関係者が独自に始めたイベントや現在検討されている土地利用計画への評価と同時に、数世代前から取り組まれてきた当該地区への住民・関係者の努力・工夫が改めて確認、評価された。これら過去の取り組み成果やその事実を踏まえながら、現代的な魅力や課題をも融合しながら今後の区画整理と利活用に向かう期待が広がっていった。



写真：最終発表会の様子。当日は別途授業の一環として同様作業を行っていた高校生も参加。大学生からの提案も興味深いものが多かったが、むしろ高校生の視点、提案内容に多くの示唆があったようにも思う。

#### 焼肉・冷麺 短角亭

- ・ランチメニューが安い
- ・量も結構多い
- ・美味しい



#### 回ったルート



#### ①二戸駅すぐの恐らく空き家

- ・前面はレトロな雰囲気もいいという感想も出た(私も同意)
- ・しかしレトロの雰囲気が濃すぎるかという意見も出た(私も同意)
- ・「もし」レトロな街というイメージを壊さなければ、必要なのは「清潔感」



学生発表のパワーポイントの一部。食、歴史、住環境など地区の多様な部分に話題と視野が広がった。

### 3-3 今後に向けたビジョン提示とこれから

以上のような作業を経て今年度において区画整備後の一定のビジョンが描き出された(図3)。空間的・視覚的なビジョンが提示されたことで今後の活用イメージや議論活性化に寄与し得ると考える。ただし当該地区の区画整理は現在進行形であり、その後の状況に応じて修正も必要であろう。これからの課題は、こうしたハード・空間イメージを共有する中で、そこに展開される暮らしやイベント等を触発、促進させるソフトな仕掛けである。次年度以降はそれらソフト面に向けた計画と具体の活動展開、またそれに並行して内外関係者の連携、機運育成が求められる。今回の研究成果を優れた動機・基盤としながら、今後に向けて引き続き研究・活動を展開していくものである。



図3 最終的に作成された駅前のイメージ(一部)

謝辞：関係者皆さまの沢山のご協力を頂いた。また本研究においては折戸はたるさんの協力を頂いている。記して感謝したい。